

市政報告会

環境と経済が両立する

社会を目指そう！！

平成18年12月16日(土) 10:00~11:30
於 糶子ピラ「糶子の間」
神戸市議員 川原田弘子



江戸時代のリサイクル



江戸時代は、植物を中心に資源がうまく循環され、環境保護の面で優秀な社会でした。古くなったものは、修理して使う・古物商に売る・原料として再生する、などとにかく物を大事にし、現在、重要視されるリサイクル・リユースのために、数々の高売や職人さんの仕事が生み出されていました。

リサイクル商

- 質屋
- 古着屋、古着仕立て屋
- 古道具屋
- 古鉄屋
- 小道具屋

修理屋

- 羅宇屋
- 錆掛け屋
- 瀬戸物焼き接ぎ
- 下駄歯入れ
- たが屋

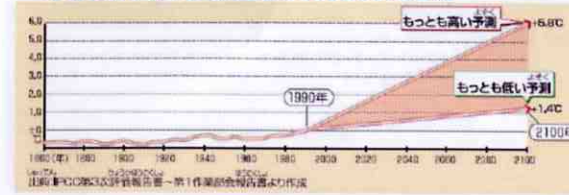


地球温暖化について

二酸化炭素やメタンガスなど、温室効果ガスの排出が増えて、地球の気温が上がってしまいました。

このまま対策をしないと、2100年には、今より1.4℃~5.8℃気温が高くなってしまいます。

●過去140年間の気温と将来の気温上昇の予測



温暖化で地球はどうなるの？

海面の上昇

温暖化が進むと海面が2100年には約1m上昇する可能性があるといわれています。小さな島々は沈んだり、海岸の砂浜がなくなったり、日本でも都市部が水没するおそれがあるといわれています。また、洪水が起こりやすくなる可能性があります。



水不足

もともと水が少ない地域では、さらに水不足になるおそれがあります。



熱帯の病気が流行

日本でもマラリアが流行するおそれがあるといわれています。



作物がとれなくなる

今まで作っていた農作物が食べられなくなるおそれがあります。



本日は、「環境と経済が両立する社会を目指そう」というテーマに沿って、ごみと資源についてお話ししたいと思います。

江戸時代は、植物を中心に資源がうまく循環された社会であり、物を大事にしながらも、古物商や数多くの修理屋さんが生計を立て、経済が流れる仕組みがありました。

そして産業革命が起き、生活は豊かになりましたが、石炭や石油を燃やすことで、温室効果ガスが増え、このままでは地球の気温が1.4℃~5.8℃も上がるようになります。

地球温暖化で北極の水が溶けて海面が上昇し、水没してしまう国や、深刻な水不足、一方で異常気象による水害、マラリアの流行などが懸念されます。

京都議定書

1997年に京都に、世界の国々が集まって

温暖化について話し合っ、

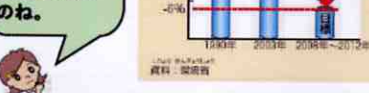
約束を決めました。

京都議定書

日本の約束の内容は、2008年から2012年の間に、温室効果ガスの排出量を1990年の時点と比較して6%削減すること

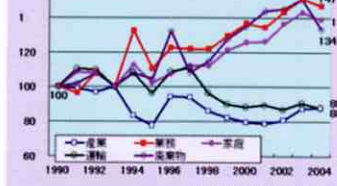
ところが！！

2003年の時点で、基準を8.3%も上回っているから、14.3%も減らさないとけないのね。



神戸市の状況はどうか？

部門別の二酸化炭素排出割合の推移



家庭、業務、廃棄物は1990年から比べて逆に1.3~1.5倍にも増えてるんだ。

ごみの減量・資源化を進め、環境にやさしい循環型社会をつくり、次の世代に「美しいまら神戸」を引き継いでいこう。

6分別スタート。ワケテンを使ってキャンペーン



リサイクル率27% (目標年次:平成27年度)

ごみの処理量25%削減 (目標年次:平成27年度)

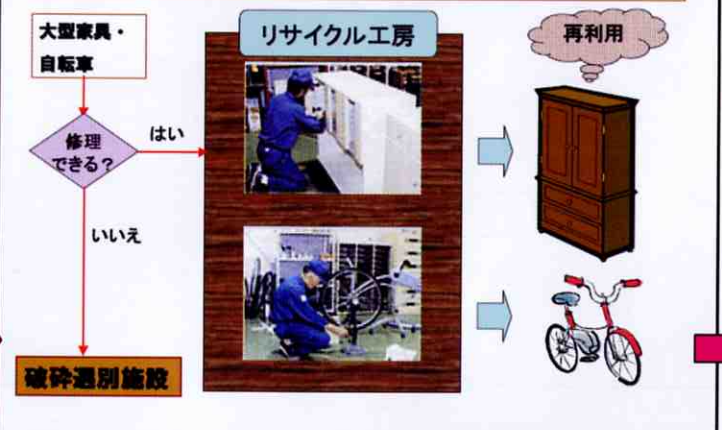
まちをきれいにしよう！！

神戸市の6分別



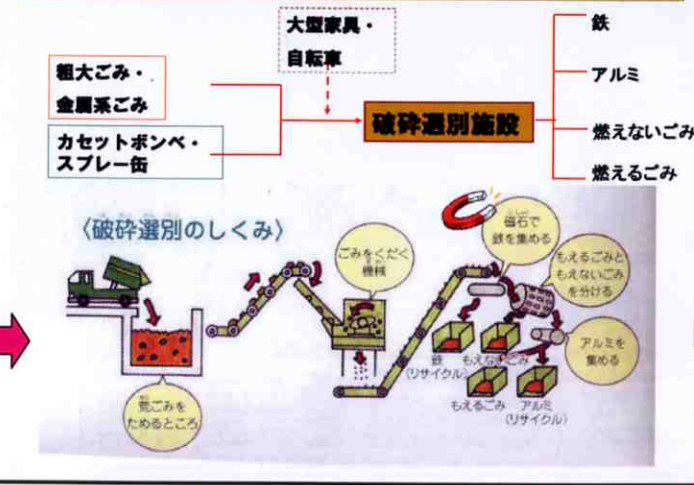
6分別が始まってちょうど2年経ち、かなり定着してきましたが、今でもいつ捨てたらいいか迷ってしまうという声も。ごみと資源がどう処理されるかがわかれば簡単になります。

ごみと資源のゆくえ① 大型家具・自転車



まず、電話をかけて取りにきてもらう「大型家具・自転車」は、修理できるものはリサイクル工房で修理して販売(¥1000くらい)、修理できないものは破砕選別施設に運ばれます。

ごみと資源のゆくえ② 粗大ごみ・金属系ごみ



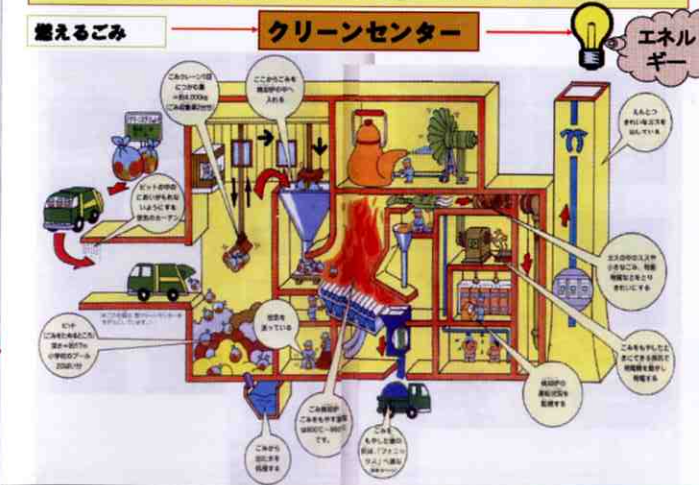
粗大ごみ・金属ゴミ・スプレー缶と先ほどの大型ゴミ等は、破砕選別施設で小さく砕かれたあと、磁石などを使って、鉄・アルミが資源として取り出されます。

ごみと資源のゆくえ③ 燃えないごみ



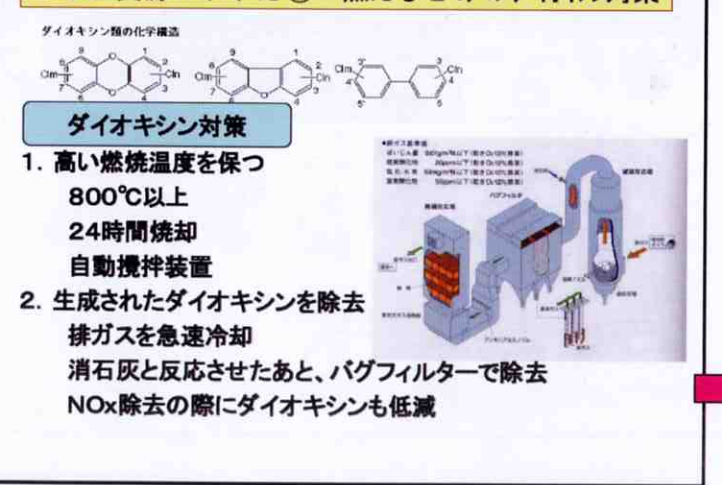
割れたお茶碗など、燃えないゴミは環境センターで埋め立て処分されます。埋め立て地の空き容量は370万m³ですので、37年でいっぱい。ごみを減らせば延命できます。

ごみと資源のゆくえ④ 燃えるごみ



台所でごみは、クリーンセンターの焼却炉で焼却されます。ごみを燃やした熱で電気を取り出すなど、エネルギー利用を行っています。

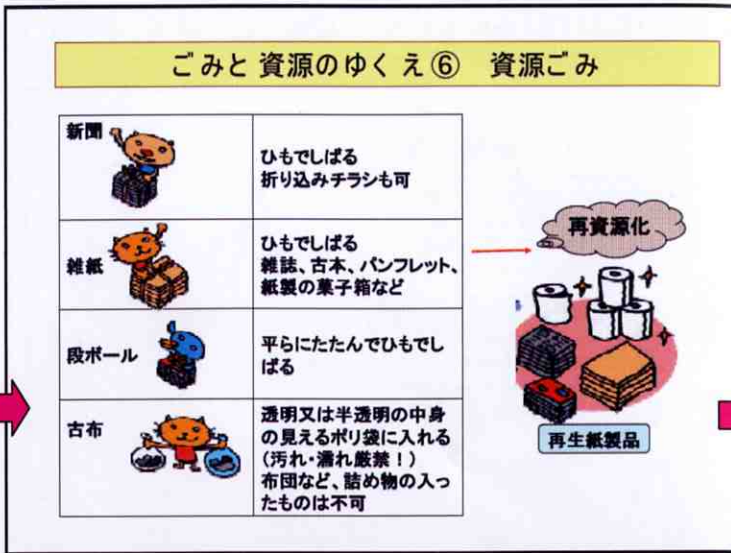
ごみと資源のゆくえ④ 燃えるごみのダイオキシン対策



食品付着のプラスチックが燃えるごみに区分されていますが、神戸市内の焼却炉は、徹底したダイオキシン対策が施されており、プラスチックを燃やしても安全です。



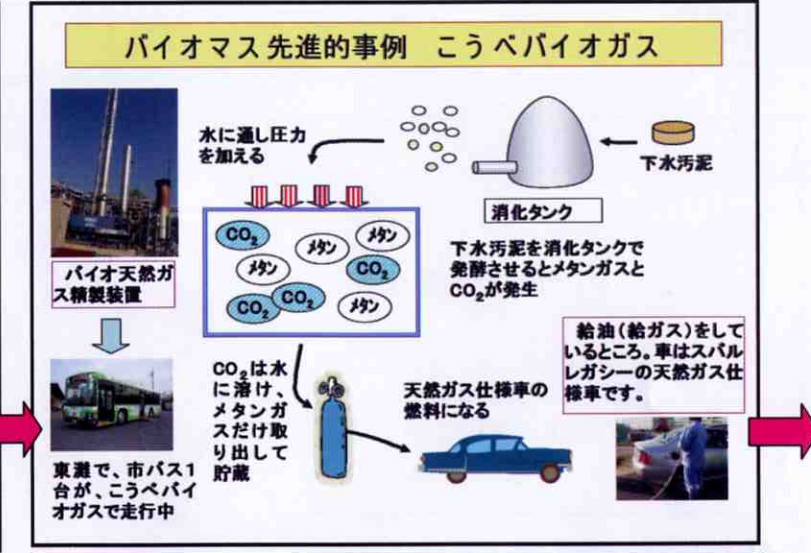
缶びんペットは、再資源化のため分別されています。ペットボトルにキャップが多いと資源としての等級が下がったり、びんにふたがあると人手で取らなければなりません。



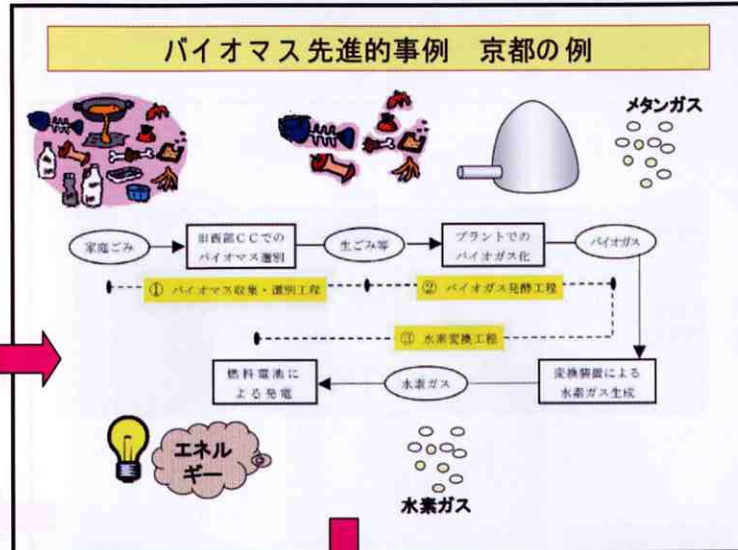
新聞・雑誌・段ボール等は、すべて資源として再利用できます。近くの地域で行っている古紙集団回収に出しましょう。



植物を利用したエネルギーは、CO₂排出量にカウントされません。エネルギーとして植物を育てるほかに、現在廃棄物として捨てているものを利用することが考えられています。



神戸市での先進的な事例では、下水汚泥を利用したバイオガスがあります。計算では、市内の下水汚泥がすべてガス燃料になると、年間2000台分の車の燃料になります。



議定書の都市、京都では、先進的な取り組みとして、家庭ごみから生ゴミを取り出し、発酵させ、水素ガスを取り出して燃料電池により発電をする取り組みも始まりました。



バイオ燃料には、サトウキビから作ったエタノールをガソリンに混ぜる、更にETBE添加剤にして混ぜる、廃油からディーゼル油を精製するなどがあり、最近国も力を入れています。



私たちは、物を大事にし、エネルギーをほとんど使わなかった江戸時代には見習うべきですが、全く同じ生活に戻ることはなかなかできません。環境を保護しながらも豊かで便利な生活を送るには、ひとりひとりの意識の向上と共に、資源循環が促進され、化石燃料に頼らない再生可能エネルギーが発達しなければなりません。「規制」と「優遇」のバランスよい施策を施行し、環境面での公共投資を積極的に行うことで、省エネ製品や資源循環を促進する企業、再生可能な新しい技術を持つ企業や農業を伸ばしていくことが必要だと思います。コスト論でなかなか発展しない資源循環やCO₂削減ですが、経済が発展する方向が更なる資源循環を促す方向になるよう、初めの一步を行政が率先してリードしていくべきと考えます。

- #### 環境と経済が両立する社会を目指そう！！
- 6分別は初めの一步です。ルールを守って分別にご協力ください。
 - 新聞や雑誌など、古紙の地域の資源集団回収に出しましょう。
 - 物を大事に、食べ物の無駄をなくしましょう。
 - 省エネ生活を心がけましょう。
 - 再生紙など、再生製品を積極的に購入しましょう。
- まずは、市民の皆さんは、6分別にご協力をお願いします。リサイクルを心がけ、物を大事に、食べ物の無駄をなくしましょう。



〒655-0034 神戸市垂水区仲田3-1-8-202
 神戸市議員 川原田弘子
 TEL&FAX 078-709-8998
 e-mail: happy@hiroko-club.com
 ホームページ: http://www.hiroko-club.com

何でも気軽に声をかけてください。